

記事を読んで、問いに答えなさい。
解答欄が足りない場合は、裏面に記すこと。

2021年 6月28日朝刊

①雌雄同体で自家受精が可能な生物が存在する反面、多くの生物は雌雄異体である。雌雄異体の意義を考察せよ。

藤枝市の会社員福原利行さん(48)が26日午前0時ごろ、同市瀬戸谷地区で雌雄同体のノコギリクワガタを発見、捕獲した。左半身はあごや足が長いなど雄の形をしていて、右半身には雌の特徴が見られる。羽の色も左側は赤茶色で、黒っぽい右側とは異なる。体長は3.5センチほど。

左右であごの長さ違うクワガタ



左右であごの長さが異なる雌雄同体のノコギリクワガタ。藤枝市内で見つかった
11月27日午前、同市内

かと思ったが、あごの長さが左右で異なっていて驚いたという。「子どもの中から昆虫採集をして

雌雄同体、藤枝の福原さん発見

きたが、捕まえたのは初めて」と語る。「ふるさと世界の昆虫館」(同市岡部町新舟)の原木直美館長(71)によると、雌雄同体は突然変異とみられ、一説では発生確率は30万分の1とも言われているという。「体が弱いことが多く、鳥などに捕食されやすい。生きている野生の個体を見つけるのはかなり珍しい」と話した。(藤枝支局・岩下勝哉)

②雌雄同体の神は、ギリシア神話に登場するヘルマフロディートスのごとく、世界各地の神話に存在する。なぜ、普遍的な存在が認められるのか考察せよ。

③左右であごの長さ違うクワガタが発見された藤枝市瀬戸谷は、瀬戸谷コロッケによる町おこしが有名である。あなたが住む地域の地場産品を利用した、町おこしの方策を考察せよ。

年 組 名前

作問者: NIEアドバイザー 実石克巳(静岡高校 教諭)

(高校/国語)

<参考>①=生物学、遺伝学に関する問題、②=神話学に関する問題、③=地域経済学、地方行政学に関する問題